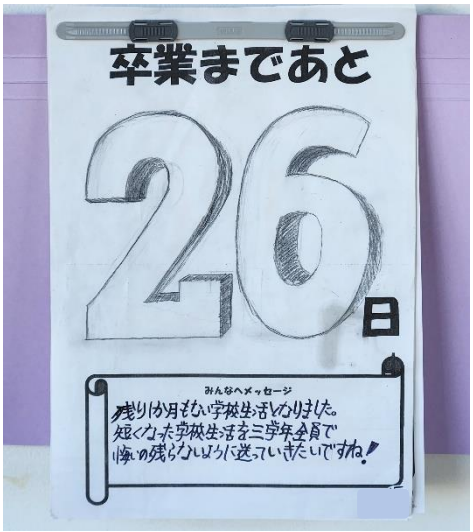
夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校
学校だより　第9号
令和6年1月30 日

「やらずに後悔」でなく「やって成功」を目指して

この時期、新聞でも多く取り上げられていますが、野田女児虐待死の事件から1月24日で5年が経ちました。虐待の定義や対応についてどう取り組むのかを考える大きな契機となりました。千葉日報、1月25日付の記事には、野田市健康子ども部の部長が、対応する職員に向け「最悪の事態を想定し行動してほしい。対応不足より過剰な対応といわれたほうが良い。空振りは許されるが見逃しは許されない。」と訴えた。との記事があり正にその通りと感銘を受けました。また、CM からの聞きかじりですが、「行動して後悔する」のと、「何もしないで後悔する」のでは、後者（何もしないで後悔する）の方が後悔が大きくなる傾向にある「行動非行動の法則」をアメリカの心理学者が提唱しているというのもリンクしていると感じました。ただ、やって後悔するならやらない選択肢もあってよいだろうとする考えもあります。というように考え方は様々あるかと思います。言葉遊びのようになってしまいますが、我々教職員は生徒の成長や幸せを願い、最善であろう内容を吟味して「やらずに後悔よりやって成功」を目指して取り組んでいるところであります。ただ正直、うまく伝えられず空振りに終わることや、逆に辛い思いをさせてしまうこともあるかもしれません。すべて成功というわけにはいきません。それらは学校評価の方に表れてくるかと思いますので、真摯に受け止め改善を図ってまいりたいと思います。「失敗するからやらない」「無理だからやらない」というのではなく、生徒にも伝えているように「考えて、決めて、やってみる」を「最善策を考えて、決めたからには、成功を目指してやってみる」として、取り組んでいきたいと考えています。

1月26日は授業参観に来校いただきましてありがとうございました。作業学習とは異なり座学メインでの職業の授業でした。就労に向けたというのは勿論のこと、就労だけでなく社会に出ていくために必要な内容を学ぶ姿を見ていただけたかと思います。社会に出ると、これまでの学校生活とは大きく異なることばかりだと思います。初めて経験することや味わったことのない感覚になることもあろうかと思います。そんな時に、立ち止まってじっくり考えることは必要ですが、前段で書かせていただいているように後悔しないように、見逃さないように「やって成功」を目指してほしいと思います。そのために、想定されるであろう課題を踏まえて、どう向き合うのかを今回のような学習を組んで実践していることをご理解いただければ幸いです。



毎年恒例の、3年生の卒業までのカウントダウンカレンダーが貼りだされました。一人一人の思いが一言コメントで添えられています。1月26日現在で残り日数は「26」となっております。残りの学校生活を悔いのないように、やり残しのないように、そして次につなげられるように、充実した日々となるように過ごしていきましょう。

校長　三宅 健二朗